資料　3

2023「植村直己冒険賞」授賞式・記念講演会の開催

～冒険賞史上初２組同時受賞、世界的冒険家の精神を継承～

冒険賞史上初の２組同時受賞となった 2023「植村直己冒険賞」受賞者の授賞式および記念講演会を開催する。(受賞者の発表は、2024 年２月 16 日済み)

≪植村直己冒険賞≫

本市出身で世界的な冒険家の植村直己さんの精神を継承し、周到に用意された計画に基づき、不撓不屈の精神によって未知の世界を切り拓くとともに、人々に夢と希望そして勇気を与えてくれた創造的な行動（業績）について表彰する（1996 年に創設し、今回 28 回目)。

【歴代の受賞者】

植村直己冒険賞 25 人、１グループ(２人)、植村直己冒険賞特別賞３人・２団体

１　授賞式・記念講演会

⑴　日時

2024 年６月１日（土）午後１時 30 分～（開場　午後０時 30 分）

※時間は予定　２時間半程度を想定

⑵　場所

日高文化体育館（豊岡市日高町祢布 954-6)

⑶　受賞者

ア　山田高司さん（65 歳　高知県出身）
　　高野秀行さん（57 歳　東京都出身）
　　～イラクの巨大湿地帯（アフワール）探検～

イ　田中　彰さん（51 歳　兵庫県出身）
　　大西良治さん（47 歳　愛知県出身）
　　～ヒマラヤ・アンナプルナ山群の大渓谷「セティ・ゴルジュ」探検～

※プロフィール、冒険概要等は、別紙のとおり

⑷　概要

ア　オープニング　府中小学校児童（３、４年生）による合唱
イ　あいさつ　　豊岡市長　関貫久仁郎
ウ　選考評　　選考委員（武蔵野美術大学名誉教授）　関野吉晴さん
エ　冒険賞の授与　メダル、盾および副賞(100 万円)
オ　記念講演　　各チームの冒険について４人と選考委員によるパネルディスカッションを予定

⑸　その他

ア　入場無料

イ　予約不要（会場定員は 600 人程度）

ウ　当日の様子は、インターネットで同時配信を予定

2024 年２月 16 日に開催した 2023「植村直己冒険賞」記者発表
（左から大西さん、田中さん、山田さん、高野さん）

〔問合せ〕日高振興局地域振興課　TEL0796-21-9056（直通）

2023 植村直己冒険賞受賞者

分　類：川　　**冒険状況**：完了　　**個人・団体**：団体

受　賞　者　**氏　名**　山田　高司（やまだ　たかし）65 歳（1958 年　高知県出身）

氏　名　高野　秀行（たかの　ひでゆき）57 歳（1966 年　東京都出身）

実施の概要　**冒険名**　イラクの巨大湿地帯（アフワール）探検

実施期間　２０１８年～２０２３年

趣　　旨　古代メソポタミア文明を育んだティグリス川・ユーフラテス川は、イラクのバグダッド以南で広大な湿地帯（アフワール）を形成している。そこには、2000 年近く独自の世界観を持ち、湿地帯にひっそりと暮らすマンダ教徒や 4500 年前のシュメール文明と変わらない生活様式で暮らすマアダンの人々がいる。

アフワールは、反政府勢力の隠れ家にもなっていたため、当時のフセイン政権はアフワールに流れ込む水を堰き止めて陸地化させた。フセイン政権が崩壊後、地元住民は堰を壊して水を流し込み、湿地帯は半分ほど回復してきた。しかし、水がなくなってしまったことで土地を離れた人がいたり、移動手段だった伝統的な舟（タラーデ）を作る職人など伝統的な文化は廃れてきた。

2017 年にイラクにあるアフワールの存在を知ってから、治安問題やコロナ禍等の影響で足止めを受けながらも現地での長期滞在によって、人類最初の文明である古代メソポタミア文明が生まれた場所、アフワールに秘められた謎を解き明かそうとした。あしかけ６年にわたる現地踏査は、世界史、民族紛争、地政学、歴史文化、SDG s など様々な角度から捉えた取材と探検となり、高野氏は、2023 年に探検の記録をまとめた『イラク水滸伝』（文藝春秋刊）を出版、山田氏は同書でイラストを担当した。

冒 険 内 容　ティグリス川・ユーフラテス川が合流する下流域一帯に東京都を上回る規模で広がる（巨大湿地帯）アフワールを探検調査し、現地の暮らしや技術、伝統を体験。4500 年前から造られ現在は廃れてしまっている現地の伝統的な舟「タラーデ」を現地の舟大工に頼んで再現、乗船。また、ティグリス川・ユーフラテス川源流域をカヌーで踏査した。

特筆すべきは、現地で「アザール」と呼ばれる布のルーツがユダヤ人にあり、ムスリムによって各地に伝播した可能性を見出し、そこから宗教的、人種的、民族的な様々な構造をあぶりだした。そして 2023 年、足掛け６年４度にわたる探検を記録にまとめた。

工夫・独創性
- 日本在住のイラク人に現地の状況や地域の歴史的変遷についてのヒアリング、関係者及び各署への周到な調査や丹念な準備を行って探検を実施した。
- 2018 年にユーフラテス川源流からカヌーで川下りを始め、現地の関係者を通じて多くの人々と繋がり、交流しながら様々な発見を記録し、高野氏が著書としてまとめた。
- 現地マンダ教徒の船大工を探し当て、伝統的な舟「タラーデ」を製作してもらい、舟による湿地行を体験した。
- 山田氏の絵を描く能力は非常に優れており、写真では伝えきれないものをイラストに描き上げて記録した。また、現地の人の似顔絵を即興で描いて人気を博し、現地に溶け込む際の一助となった。
- 山田氏の描写力、長年の川旅の経験と環境問題に対する活動、高野氏の発想転換力と好奇心、高い語学力が相まったことで、今回の探検で多くの成果を生んだ。

冒険等の経歴

山田　高司

探検家、環境活動家。東京農業大学探検部出身。

「地球の川をつなぐ」を目標に世界の川をカヌーで下る。アフリカでの川行のなかで、「川から世界を見る訓練をしてきた中で、その源である森のこと、人々の暮らしを住み込んでもっと知りたい、もっと深く見る目が欲しい」と地球の庭師修行として植林プロジェクトなどを行っている。

1981 年　東京農業大学在学中に南米大陸の 3 大河川（オリノコ川、アマゾン川、ラプラタ川）7,750km をカヌーで縦断し、「青い地球一周河川行」計画をスタート。

1985 年～　アフリカに渡り、セネガル川、ニジェール川、ベヌエ川、シャリ川、ウバンギ川、コンゴ川の川旅を成し遂げる。

1987 年～　コンゴ川以降、パンアフリカ河川行最後のナイル川行は現地政情不安により中断

1991 年～　「緑のサヘル」を立ち上げ、現地で植林活動を実施

1997 年～2000 年代前半にかけて、環境 NGO「四万十・ナイルの会」を主宰。

高野　秀行

ノンフィクション作家。早稲田大学探検部出身。

ポリシーは「誰も行かないところへ行き、誰もやらないことをし、誰も書かない本を書く」。大学在学中の探検行をまとめた、「幻の怪獣・ムベンベを追え」でデビュー。

1992～1993 年　タイ国立チェンマイ大学日本語科で講師

2008～2009 年　上智大学外国語学部で講師

【受賞歴】

2005 年　『ワセダ三畳青春記』で第 1 回酒飲み書店員大賞を受賞

2013 年　『謎の独立国家ソマリランド』で第 35 回講談社ノンフィクション賞受賞、第 3 回梅棹忠夫・山と探検文学賞受賞

関連記事

文春オンライン　https://bunshun.jp/articles/-/66046#goog_rewarded
https://bunshun.jp/articles/-/64137

2023 植村直己冒険賞受賞者

分　類：山　　**冒険状況**：完了　　**個人・団体**：団体

受　賞　者　**氏　名**　田中　彰（たなか　あきら）51 歳（1972 年　兵庫県出身）

氏　名　大西　良治（おおにし　りょうじ）46 歳（1977 年　愛知県出身）

実施の概要　**冒険名**　ヒマラヤ・アンナプルナ山群の大渓谷「セティ・ゴルジュ」探検

実施期間　２０２２年１１月～２０２３年３月

趣　　旨　ヒマラヤ・アンナプルナ山群にある巨大な大地の裂け目「セティ・ゴルジュ」は、現地で「悪魔の谷」と呼ばれている。狭い場所では幅数m、深さは 400m以上もあり、これまでNASA や地質学者らの調査でも近づくことのできない人類未踏の深い峡谷である。

2019 年にその存在を知り、着想から４年。新型コロナウィルス感染症で行動できず、機会を待った。そして、一次遠征を経て、今回これまで誰も挑んだことのない探検に挑戦し、谷の全貌に迫るきっかけとなった。

冒 険 内 容　2022 年 11 月の一次遠征後、１年のうちで最も水量が減る厳冬期を選び、2023 年２月から３月にかけて二次遠征を実施。退避ロープの設置などの準備行動の後にゴルジュへの下降を実施。頻繁に落石が起こる中、本流のゴルジュ（狭い峡谷）をキャニオニング（歩いたり、泳いだりして下る）し、上部約 700mの区間を踏査した。（一次遠征で踏査した中部区間を含めると、本流ゴルジュの総踏査距離は約１ｋｍとなる。

また、右俣ゴルジュの 400m区間の踏査と（調査区間はさらに 300mが加わる）、左俣ゴルジュの 200m区間の踏査も別途行なった。）下流側の左俣や再下流部も合わせ、合計約 3.5㎞の踏査を行った。

冬のゴルジュ底でのビバーク（露営）は不可能で、用意しておいた 400mロープをヘッドランプを頼りに登り返してベーススキャンプに戻る。

十分な事前調査のもとに行われた踏査であったが、下降用のロープを外すと、ゴール地点までたどり着かなければ谷底から戻ることは出来ない。真冬の水温はわずか３℃で、夜までに戻らなければ凍死する可能性もある。まさに後戻りのできない探検だった。

人類初の踏査であるため様々な困難に出くわすが、それまでに培ってきた技術、体力によって乗り越えることができた。

標高 3500m付近から全長約５ｋｍにわたって続く狭く深い峡谷「セティ・ゴルジュ」、これまでその成り立ちは謎とされ、地質学者が知りたかったゴルジュ周辺の地層を今回克明に記録したことは科学史上にのこる成果で、まさに快挙である。

（なお、今回の探検記録を参考に、酒井治孝京都大学名誉教授が科学的調査を実施。セティ・ゴルジュ誕生の新説を導き出した。※論文投稿中）

工夫・独創性

・セティ・ゴルジュまでのルートがないため、ヘリコプターで入山。一次遠征では標高約 3200m、二次遠征では標高約 3900mの岩場に降り立ちベースキャンプを設置した。

・これまでフランスの地質調査チームがアンナプルナ地域の地質図を作成したが、大絶壁があるため誰も調査することができず、セティ川源流域のみ空白地帯となっていた。今回誰も挑んだことのない踏査によって、その成り立ちを知るきっかけとなった。

・インドがアジア大陸にぶつかる大陸衝突による海底隆起によってヒマラヤに多くの断層が作られたが、今回の踏査によって、セディ・ゴルジュ周辺は断層とおぼしき地形が密集しており、セティ・ゴルジュ自体も断層である可能性が示された。

・アンナプルナⅢとⅣの間には、かつて山があり、巨大地震によって山体崩壊を起こしてゴルジュの上に堆積し、針山のような特殊な地形となったことが判明した。

冒険等の経歴

田中　彰

渓谷探検家、キャニオニングガイド。国際キャニオニング協会認定インストラクター。（一社）ジャパンキャニオニング協会副理事。関西大学探検部出身。

在学中、「木登り」で京都大学の樹冠研究に参加。方法開発のため、アフリカ・マダガスカルの樹上で一ヶ月半もの期間一度も木から降りずに暮らす。

29 歳の時、当時日本にはなかったアクティビティ「キャニオニング」と出会いその世界に没頭。2017 年にアジア人初、当時世界で９人しかいない国際キャニオニング協会(CIC) 認定インストラクターとなる。

オセアニア、アジア、ヨーロッパ、南米などへの遠征を繰り返し、日本内外で数百の渓谷を探検する日本での第一人者。

【主な冒険経歴】

学生時代にマダガスカルで１か月半の樹上生活（着生ランのサンプル調査）
大学卒業後、ブラジル：アマゾンのインパで樹上生活（二酸化炭素固定量調査）

2016 年　台湾：恰堪溪（チャーカンシー）初下降
2018 年　ニュージーランド：グルーミーゴルジュ第２下降
2020 年　台湾：卡社溪（カーシャーシー）初下降
2023 年　ヒマラヤ：セティ・ゴルジュ踏査

大西　良治

日本山岳・スポーツクライミング協会ルートセッター、日本山岳ガイド協会フリークライミングインストラクター。東北大学ワンダーフォーゲル部出身。

19 歳で沢登りを始め、22 歳のときに単独行に目覚める。国内外多数の沢を遡行し、現在に至るまで日本の沢の大半はソロで遡行。世界最難のグルーミーゴルジュを世界第２降、北アルプスの剱沢や前人未踏として知られた称名ゴルジュの単独遡行に成功。同時にクライミングにも傾倒し、ボルダリングでは御岳「蜥蜴」(四段)初登、ルートでは大日岩「フォッサマグナ」(5.14a)を登る。著書に、『渓谷登攀』(山と溪谷社）がある。

【主な冒険経歴】

2010 年　山形県梅花皮（かいらぎ）沢滝沢単独初完全遡行
　　長野県赤川地獄谷単独遡行
2011 年　富山県剱沢大滝単独遡行
2013 年　台湾：恰堪溪（チャーカンシー）初遡行
2014 年　新潟県飯豊川～北股川下降単独遡行
2016 年　富山県称名川本流単独初完全遡行
　　台湾：恰堪溪（チャーカンシー）初下降
2018 年　ニュージーランド：グルーミーゴルジュ第２下降
2020 年　山形県荒川 毛無沢本沢単独遡行
　　台湾：卡社溪（カーシャーシー）初下降
2023 年　ヒマラヤ：セティ・ゴルジュ踏査

関連記事

NHK スペシャル HP
https://www.nhk.jp/p/special/ts/2NY2QQLPM3/blog/bl/pneAjJR3gn/bp/pWnzzA9pDW/
youtube　渓谷探検家 田中彰(Canyoneer Akira Tanaka)
https://www.youtube.com/watch?v=Fb9TzAR7urc

2021「植村直己冒険賞」受賞者　阿部雅龍さんのご逝去

2021「植村直己冒険賞」を受賞した、冒険家の阿部雅龍さん（41 歳）が本年３月 27 日に脳腫瘍のため亡くなりました。白瀬ルートによる南極点単独徒歩到達再挑戦を控えた矢先の昨年８月に病気が見つかり、摘出手術を受けて治療を続けていました。

私たちに勇気や感動を与えてくれた行動に敬意を表すとともに、ご冥福をお祈りいたします。

《プロフィール》

阿部雅龍（あべまさたつ）さん

1982 年秋田県出身。秋田大学在学時から冒険活動を開始。冒険家・大場満郎（1999「植村直己冒険賞」受賞者）に師事。

同郷で明治期の探検家・白瀬矗南極探検隊長の足跡を辿り、人類未踏破ルート単独無補給での南極点到達を目指す。

2021 年、白瀬ルートによる南極点単独徒歩到達を目指すも、南緯 85 度 26 分、西経 165 度 50 分で一時撤退。2023 年秋に再挑戦予定だった。

2022 年６月４日に開催した 2022「植村直己冒険賞」授賞式

2021 年に撤退地となった最南到達地点で白瀬隊の探検旗を掲げる阿部さん